

2020年6月30日

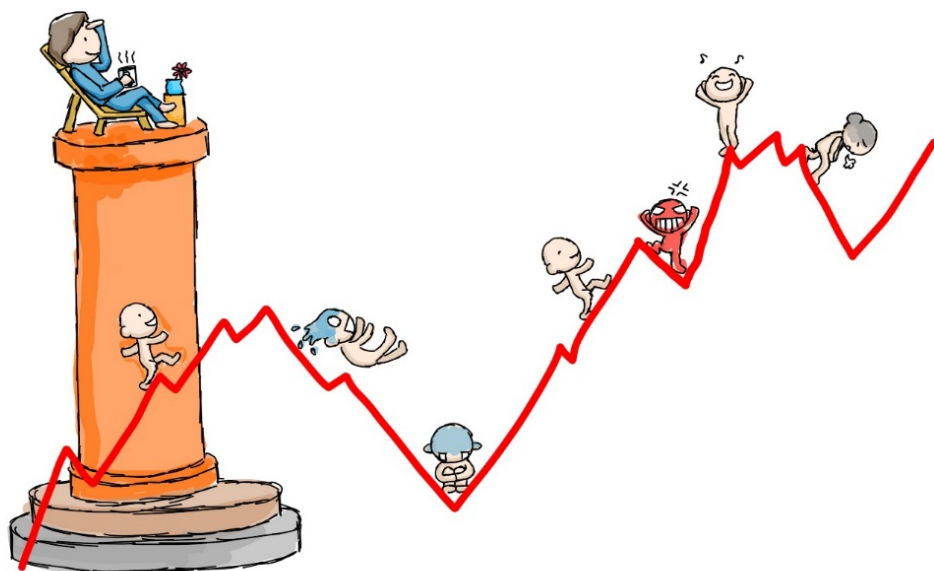
Vol
137

“コロナ・ショック”からの反発、だから売る？ 相場を張るのではなく、必要だから取るリスク

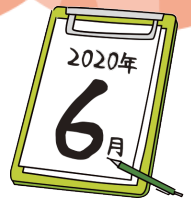
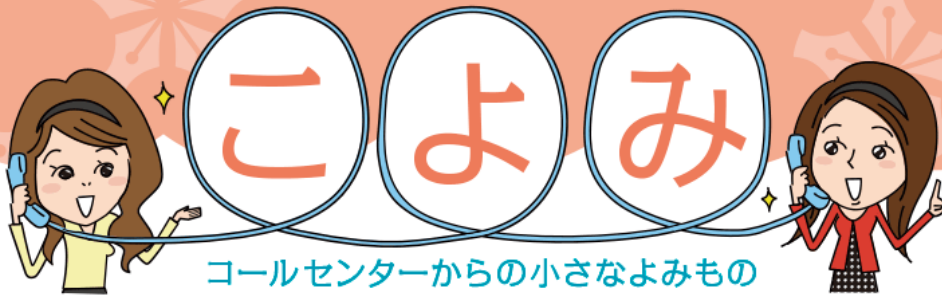
新型コロナウイルス感染拡大の影響で世界の株式市場は今年2月に急落したものの、3月20日頃から反発しています。意外に戻りが早いことや、第2波の懸念などもあり、お客様から「今は、割高なのか？」とか「ここで、一旦売却して様子を見た方がいいのか？」といったお問合せを頂くことがあります。

主要国で段階的に経済活動が再開されているものの、“コロナ”が完全に収束したわけでもなく、状況次第で市場は再び大きく変動する可能性が考えられます。しかし、こうした時に相場に一喜一憂するのではなく、資産運用を始めた時に決めた目的と時間軸に立ち返ることが大事であると日興アセットは考えます。

ポイントは“相場を張る”のではなく、将来、いくらにしたいかの目標金額(ゴール達成＝必要利回りの獲得)のために“納得ずく”で価格変動への覚悟を持つことです。



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

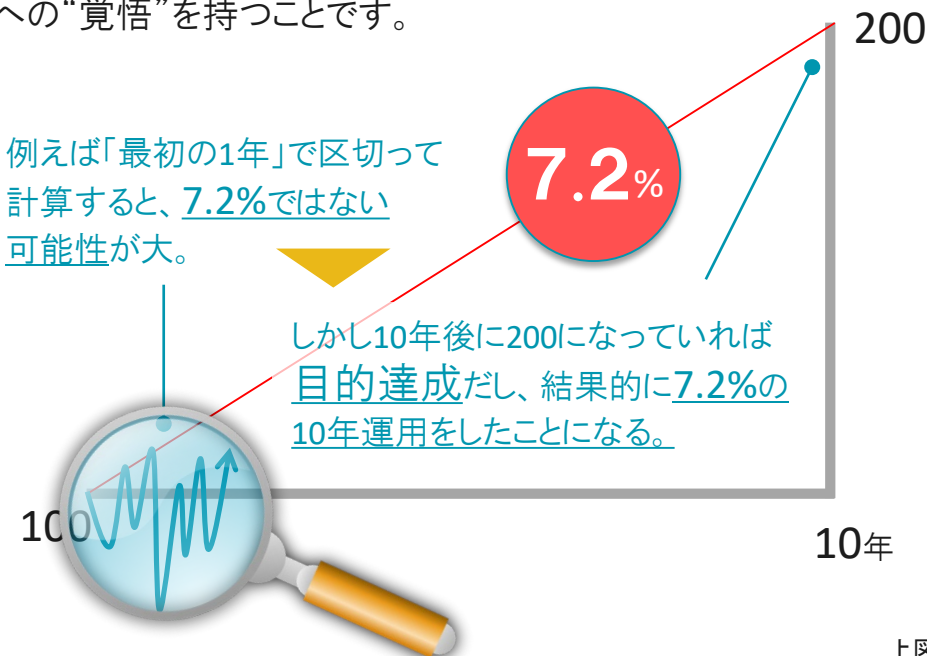


“納得ずく”のリスクテイク

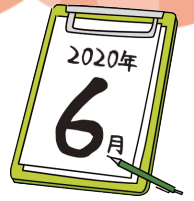
例えば10年後に資産を2倍にしたいという目標を立てたとします。この場合、必要利回りは年率7.2%です。元本保証の預貯金であれば途中の変動なしに、直線で10年後のゴールまで到達します。

一方、投信は元本保証ではないため、当然、途中で価格が上昇したり、下落したりします。そのため、投信を買うということは「直線をあきらめて、曲線を受け入れて、後から振り返って笑う」ということと言えます。預貯金は直線なので事前に利回りが決まっていますが、投信は曲線であり、しかも事前にどんな曲線になるかは分かりません。これが預貯金と運用の大きな違いです。

しかし、預貯金であっても、投信であっても、10年後に同じゴールに到達すれば、結果は同じことで、どちらも年率の利回りは7.2%となります。その意味で、投信を購入したあとの考え方がとても重要になります。それは、将来、いくらにしたいかの目標金額(ゴール達成＝必要利回りの獲得)のために“納得ずく”で価格変動への“覚悟”を持つことです。

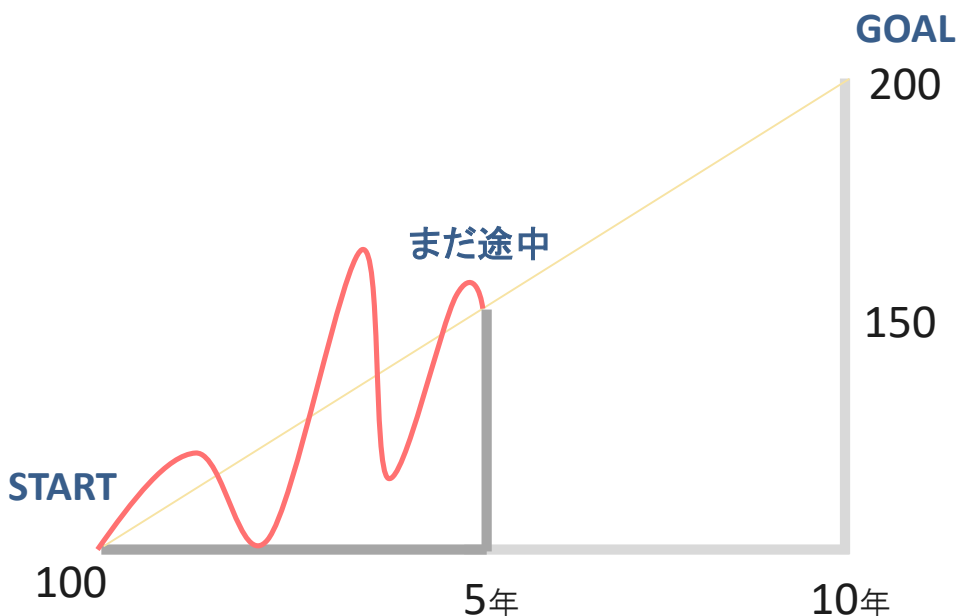


上図はイメージです



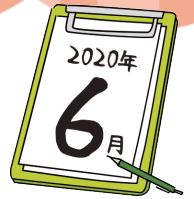
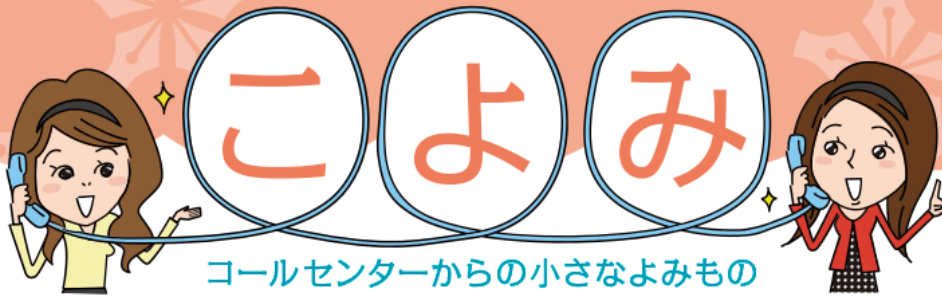
次に資産運用をはじめてから5年が経過した場合を考えてみます。価格が上下しながら5年後に150になったとします。下図をみると、直前の大幅下落から急上昇していますので、「やれやれ、ようやく上昇してきたか」と一旦売却したくなるかもしれません。

しかし、10年間で設定した目標金額(ゴール)から見ればまだ折り返し地点に過ぎません。短期的な価格変動で売買の判断を行なうのではなく、立てた目(ゴール)に対して検討すべきではないかと考えます。今回の“コロナ・ショック”からの反発でも、立てたゴールの途中であるならば同じことが言えます。



上図はイメージです

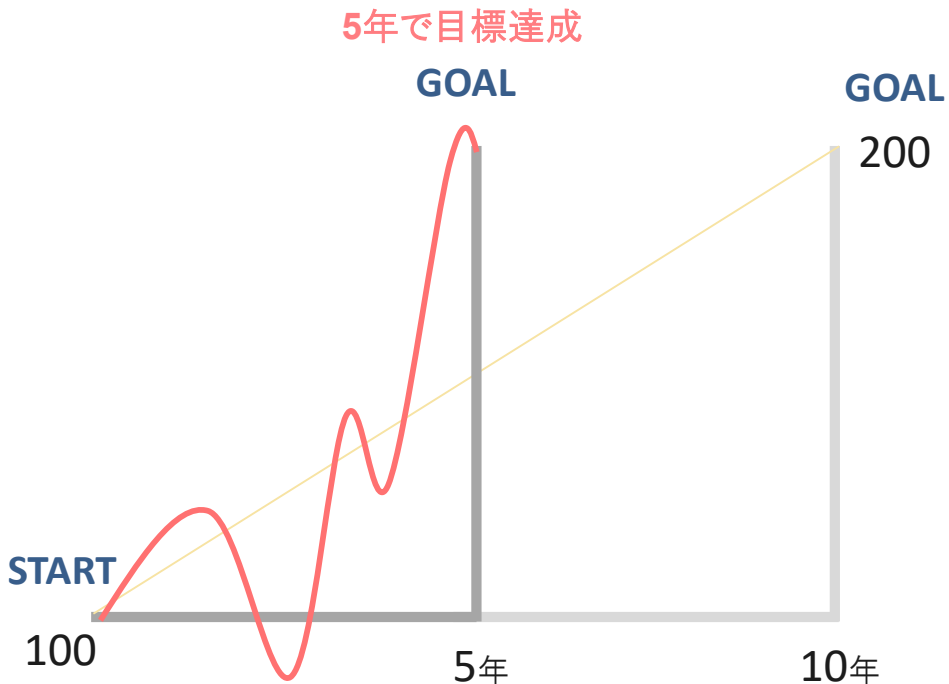
■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



では、いつ売却するのか？

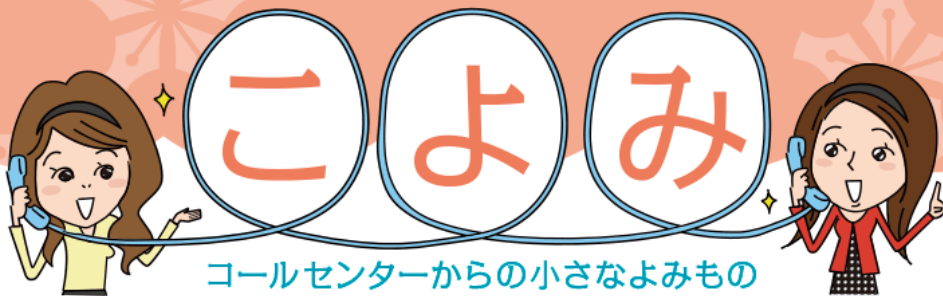
「いくらにしたい」という目標金額(ゴール)が達成された時

価格が上下しながら5年後に200になったとします。この場合、期間10年で立てたゴールに到達したわけですから、一旦、売却しても良いかもしれません。ここで押さえておきたいことは、マーケットの短期的な見通しをもとに売却の判断をするのではないということです。これまでの価格変動に耐えることができたのは「相場を張って来たわけではない」という強い考えがあったからです。



上図はイメージです

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



前を向く投資信託

日興アセットが信じ、皆様におススメしたいのは、“経済は右肩上がり”という考え方です。これは、人間の欲に限りがない以上、「経済は右肩上がりで成長する」、「であるならそれを反映する株価は長期で右肩上がりになるはず」、といった意志ある楽観論です。6月下旬にIMF(国際通貨基金)が最新の景気見通しを発表し、2020年の世界経済の成長率を前年比▲4.9%としました。“コロナ”の影響で厳しい見通しが出されましたが、私たちの目的と時間軸にとって大事なものは、IMFが四半期ごとに発表する今年と来年の成長率のスピードを議論するのではなく、お金が必要になって投信を解約するだろう、5年後、10年後、20年後に世界経済は縮小していく一方なのか、それともやはり拡大していくのか一ただ、それだけだと思います。

皆様が資産運用をスタートする時に、将来いくらにしたいかの目標金額(ゴール)を決めて、「ゴール達成＝必要利回りの獲得」の為に、自分にとって必要だから取るリスクと“納得ずく”のリスクテイクができるならば、たとえ、再び“コロナ”の影響で市場が大きく変動することがあったとしても、動揺することなくゆったり構えて前向きな資産運用ができるのではないかと日興アセットは考えます。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00～17:00

